

ドイツ語楽曲を原曲とする翻訳唱歌に関する考察 —『小学唱歌集』を中心として—

佐藤 慶治*・平和 孝嗣・松 信浩 二

A study on five Japanese songs of the Shogaku-Shokashu:
in comparison to the German originals and English versions

Keiji SATO, Takatsugu HIRAWA and Koji MATSUNOBU

(Received by October 25, 2013)

1. 導 入

近代日本における音楽教育については1872年、今日に続く近代教育の基礎である「学制」が公布された際に、小学校の一教科として「唱歌」が定められたが、これは、当時の近代国家である米国や欧州をモデルとしてその文化を取り入れようとする明治文明開化の風潮の中において、外国の制度を模倣して定めただけのもので、資料や実際の指導者もなく、更には「当分之ヲ欠ク」という註がなされており、有名無実な教科であった。明治政府は1781年に編輯寮を設置し、教科書の編輯と翻訳に着手するが、音楽に関しては全く手を付けられず、その後、1879年に公布された教育令においても有名無実な教科という状況は変わっていない。そこで、師範学校調査のため1875年より米国へ派遣され、1878年に帰国していた伊澤修二らの提唱により、1879年に文部省は東京音楽学校の前身である音楽取調掛を創設し、伊澤を掛長に任命する。伊澤は、米国留学時代の自身の師であったルーサー・ホワイティング・メーソンを、いわゆるお雇い外国人教師として日本に招聘し、1881年から1884年にかけて、わが国最初の音楽教科書である『小学唱歌集』全三篇を発行する(第一篇が1881年、第二編が1883年、第三編が1884年にそれぞれ発行される)。この教科書は全三篇において91曲の楽曲を掲載しているが、その三分の二強が外国語楽曲に日本語の歌詞をつけた所謂「翻訳唱歌」と呼ばれるものであり、『小学唱歌集』の場合、主に英米とドイツの民謡や歌曲、さらにはメーソンの編纂した児童用音楽教材集である *NATIONAL MUSIC CHARTS* や *NATIONAL MUSIC READERS* の楽曲を原曲としている。翻訳された歌詞に関しては必

ずしも原典に忠実とはいえないが、これらの唱歌歌詞は大半が音楽取調掛員による翻訳であることが判明している¹⁾。

『小学唱歌集』は唱歌の目的を「徳性ヲ涵養スルヲ以テ要トスヘシ」と規定しており、さらにその機能を「人心ヲ正シ風化ヲ助クル」ことにあると位置付けている。実際に、教育史学者の唐澤富太郎による全三篇の楽曲歌詞内容の分類²⁾を見てみても、全91曲のうち52曲が忠君愛国的、教訓的な内容を持っており、これらのことから考えても、この時点で日本の音楽教育は既にナショナル・アイデンティティの創造を担っていたと言えよう。これは教育史学者の山住正巳によって、政府や文部省の政策が明治10年代に保守反動に転じたためと理由付けられているが³⁾、音楽教育史学者の奥中康人によると、徳育と唱歌教育とが矛盾せず接合している「徳育唱歌による近代化」を構想していた伊澤自身の考えでもあった⁴⁾。音楽教育によっていわば「国民づくり」を行うというこの傾向は、紆余曲折を経ながらも基本的には第二次世界大戦まで継続される。

2. 先行研究と本論文の位置付け並びに方法

唱歌教育に関して、近年日本において多くの研究が行われており、『小学唱歌集』を取り扱った研究としては、まず第一に山住正巳による『唱歌教育成立過程の研究』が挙げられる。この研究書は、山住が発掘した唱歌教育の史料、すなわち音楽取調掛の書簡や書類を精査して、その成果をまとめたものであり、一次資料を多く取り扱っているという事で、唱歌教育史の研究資料として第一級のものである。しかし山住自身が断っているように、この本では唱歌歌詞の考察については断片的にしか行われていない。また最近では、日本語学者である山東功著の研究書『唱歌と国語 明治近代化の装置』において、『小学

*九州大学大学院比較社会文化学府国際社会文化専攻博士後期課程

唱歌集』を中心とした唱歌歌詞の意味と音楽取調掛員編纂の文法書との関係に関する考察が行われており、歌詞選定を中心として唱歌の作成の背景を論じている点が興味深い。その他に、伊澤修二の生涯や思想を扱っている奥中康人著の『国家と音楽 伊澤修二がめざした日本近代』、伊澤の著作に山住が校注を施した『洋楽事始』、『小学唱歌集』の歌詞内容による分類を行っている唐沢富太郎著の『教科書の歴史』などを、本論文の主要な先行研究著作として挙げる。また、諸外国においても日本の近代化を扱った研究は存在しており、音楽の分野に関しては、日本の洋楽導入史をとりまとめたAtsuko Watanabe-Gross著の*Einführung der europäischen Musik in Japan*が音楽取調掛の設立と発展について詳しく考察している。更に先行研究論文では、『小学唱歌集』の各楽曲の出典に関する研究として、言語文化学者の櫻井雅人による論文「唱歌の中の外国曲」が主要なものである。この論文は、櫻井が『小学唱歌集』の各楽曲の原曲を一つ一つにわたって精査したものであり、櫻井の報告をまとめると、『小学唱歌集』の中のドイツ語楽曲を原曲とした翻訳唱歌は、第17番、第22番、第34番、第35番、第36番、第73番、第76番、第83番、第89番の9曲である。本論文では教育史学者の斉藤利彦らが校注を施した『教科書啓蒙文集 新日本古典文学大系明治編11』の意見を加え、第50番も加えた10曲をドイツ語楽曲を原曲とした翻訳唱歌として扱う。

本論文の目的は、『小学唱歌集』におけるドイツ語楽曲を原曲とする翻訳唱歌の歌詞と、その原曲の歌詞の翻訳を比較分析し、『小学唱歌集』の翻訳唱歌歌詞における「教育的」な内容の出所を考察することである。それによって唱歌の歌詞というプリミティブな部分を通じ、音楽取調掛がどの程度独自に教育的内容を付随させたのかということ、つまりどの程度自由に外国語楽曲の歌詞を改変していたのかという事を考察出来ると考えられる。

3. 各曲の歌詞分析

唐沢の歌詞内容による分類では、『小学唱歌集』の楽曲を、大きく「自然・生活・行事に関するもの」「君が代を祝うもの、忠君愛国的なもの」「教訓的なもの」という三つの項目に分けている。このうち「教育的」な内容を含んでいると言えるのが「君が代を祝うもの、忠君愛国的なもの」「教訓的なもの」の二つだが、ドイツ語楽曲を原曲とする翻訳唱歌のうち第17番、第22番、第36番、第50番、第73番、第89番の6曲がこれに当てはまる。このうち第17番の

《蝶々》は非常に有名な楽曲であり、音楽学者の安田寛による考察⁵⁾などが既に存在するため、本論文では残りの5曲を取り扱うものとする。

また「自然・生活・行事に関するもの」に分類されている4曲だが、例えば第83曲の《さけ花よ》に「にごらぬ御代に、なけかわず、やよなけかわず」という忠君的な歌詞が見られるなど、必ずしも純粋に自然を歌っただけのものとは言えない部分があり、これは今後の課題としたい。

(1) 第22番《ねむれよ子》

唐澤によると「教訓的なもの」の「父母」の項目に分類される。おおもとの原曲はドイツの子守唄 *Schlaf, Kindlein, schlaf* であり、アルニムとブレンターノの『少年の魔法の角笛』の一部である。アメリカでは *Sleep, Baby sleep* という翻訳の子守唄が知られており、Elizabeth Prentissによる訳詩は19世紀の中ごろには既に存在した。他に1883年のシートミュージックや、讚美歌としての訳詩も存在するが、『小学唱歌集』発行の年月から考え、こちらは参考にされていないと推測される。以下にドイツ語と英語の歌詞と翻訳、唱歌の歌詞を記す。

*Schlaf, Kindlein, schlaf,*⁶⁾

- Schlaf, Kindlein, schlaf,
Der Vater hüt die Schaf,
Die Mutter schüttelt Bäumelein,
Da fällt herab ein Träumelein.
Schlaf, Kindlein, schlaf!
- Am Himmel ziehn die Schaf,
Die Sternlein sind die Lämmerlein,
Der Mond, der ist das Schäferlein,
- Christkindlein hat ein Schaf,
Ist selbst das liebe Gotteslamm,
Das um uns all zu Tode kam,
- so schenk ich dir ein Schaf
Mit einer goldnen Schelle fein,
Das soll dein Spielgeselle sein,
- und blök nicht wie ein Schaf,
Sonst kömmt des Schäfers Hündelein
Und beißt mein böses Kindelein,
- Geh fort und hüt die Schaf,
Geh fort, du schwarzes Hündelein,
Und weck mir nicht mein Kindelein,

《眠れ赤子よ眠れ》

- 眠れ赤子よ眠れ
父は羊を守る
母は小さな木をゆする

そこに小さな夢が落ちる
眠れ赤子よ眠れ!

2. 天は羊を引っ張り
小さな星は小さな仔羊
月、それは小さな羊飼
3. 神の子キリストは羊を持つ
自身も神の愛しき仔羊
そして私たち全てのために死ぬ
4. 私は君に羊を送る
金の素敵な鈴と共に
羊は君の遊び仲間であってほしい
5. そして羊のように鳴く
そしたら牧羊犬が来て
私の悪い赤子を噛んでしまう
6. 行って羊の番をし
行け、小さな黒い犬
そして私の赤子を起こすな

*Sleep, Baby sleep*⁷⁾

1. Sleep, baby, sleep,
Thy father's watching the sheep,
Thy mother's shaking the dreamland tree
And down drops a little dream for thee,
Sleep, baby, sleep!
2. The large stars are the sheep,
The little stars are the lambs, I guess,
And the bright moon is the shepherdess,
3. The Saviour loves His sheep,
He is the Lamb of God on high
Who for our sakes came down to die,

《眠れ赤子よ眠れ》

1. 眠れ赤子よ眠れ
お前の父は羊を見張っている
お前の母は夢の国の木をゆすっている
そして小さな夢がお前のもとに訪れる
眠れ赤子よ眠れ!
2. 大きな星たちは羊
小さな星たちは仔羊、そう思う
そして煌びやかな月は女の羊飼
3. 救済者は彼の羊を愛する
彼は天の神の仔羊
我々のために地上におりて死んだ

第二十二 ねむれよ子⁸⁾

- 一 ねむれよ子、よくねるちごは、ちちのみの、
父のおおせや、まもるらん、ねむれよ子、
- 二 ねむれよ子、よくねるちごは、ははそばの、
母のなさげや、したうらん、ねむれよ子、

三 ねむれよ子、よくねておきて、ちちははの、
かわらぬみ顔、おがみませ、ねむれよ子、

三連の歌詞であるという事から見ても、基本的には英語歌詞の1番を下敷きに行っていると言えよう。しかしドイツ語原詩と英語訳詩においてはキリスト教的な教義が強く打ち出されているのに比べ、唱歌の歌詞は英語訳詩1番の内容を表面上参考に行っているだけである。「父母」という言葉をキーワードに、教育勅語など明治期の教育で重要視されていた「親の恩」の大切さを歌う内容になっている。更に英語訳詩からはドイツ語原詩5番のような教訓めいた内容は削除されており、唱歌作成の際、唱歌と共通する「子供はきちんと寝ないといけない」という示唆をしているドイツ語原詩も参考にされたのではないかと推測される。

(2) 第36番 《年たつけさ》

唐澤によると「君が代を祝う」ものの項目に分類される。おおもとの楽曲はウステリ作詞、ネーゲリ作曲の*Freut euch des Lebens*だが、櫻井によると直接的にはメーソンの*NATIONAL MUSIC CHARTS*の*The Rising Sun*が出典である。以下にドイツ語と英語の歌詞と翻訳、唱歌の歌詞を記す。

*Freut euch des Lebens*⁹⁾

1. Freut euch des Lebens,
weil noch das Lämpchen glüht;
Pflücket die Rose,
eh' sie verblüht!
Man schafft so gern sich Sorg' und Müh',
Sucht Dornen auf und findet sie
Und läßt das Veilchen unbemerkt,
Das uns am Wege blüht.
2. Wenn scheu die Schöpfung sich verhüllt
Und laut der Donner ob uns brüllt,
So lacht am Abend nach dem Sturm
Die Sonn' uns doppelt schön.
3. Wer Neid und Mißgunst sorgsam flieht
Und G'nugsamkeit im Gärtchen zieht,
Dem schießt sie schnell zum Bäumchen auf,
Das gold'ne Früchte trägt.
4. Wer Redlichkeit und Treue liebt
Und gern dem ärmeren Bruder gibt,
Bei dem baut sich Zufriedenheit
So gern ihr Hüttchen an.
5. Und wenn der Pfad sich furchtbar engt,
Und Mißgeschick uns plagt und drängt,

- So reicht die Freundschaft schwesterlich
Dem Redlichen die Hand.
6. Sie trocknet ihm die Tränen ab,
Und streut ihm Blumen bis ans Grab;
Sie wandelt Nacht in Dämmerung,
Und Dämmerung in Licht.
7. Sie ist des Lebens schönstes Band:
Schlingt, Brüder, traulich Hand in Hand!
So wallt man froh, so wallt man leicht,
Ins bess're Vaterland.

《人生を楽しめ》

1. 人生を楽しめ
まだランプは燃えているから
バラを摘め
それがしばむ前に！
人は容易く自らに心配と苦勞をもたらすとげを探し、それを見つけ
そして堇には気づかないようにさせる
それは道端に咲いている
2. 内気な天が自身を覆い隠すとき
雷はやかましくわめき
晩には嵐に向かって笑う
太陽は、倍美しい
3. ねたみや嫉妬を注意深く避ける者
そして庭の中で謙虚さと共に行動する者
すぐに木までたどりつき
それは黄金の果実をもたらす
4. 誠実と真実を愛する者
そして喜んで貧しき兄弟に与える者
自身が満足し
彼の小屋で喜ぶ
5. そして散歩道が色褪せ始めたとき
そして不幸が私たちを悩ませ押すとき
我々の友情は満ち足りている
手を公正さに向けて
6. 彼女は涙を乾かす
そして墓に花をまく
夕暮れが夜へと変わる
そして夜明けの光が
7. 人生は最も美しいきずな
兄弟と心地よく手を取り合え！
人は容易く喜び沸き立つ
祖国においてはなおさらである！

*The Rising Sun*¹⁰⁾

1. See where the rising sun,
In splendor decks the skies.
His daily course begun,

Haste, and arise.
Oh, come with me where violets bloom,
And fill the air with sweet perfume,
And where, like diamonds to the sight,
Dewdrops sparkle bright.

2. Fair is the face of morn;
Why should your eyelids keep
Closed when the night is gone?
Wake from your sleep!
Oh, who would slumber in his bed
When darkness from his couch has fled;
And when the lark ascends on high,
Warbling songs of joy?

《日の出》

1. 日の登る場所を見よ
輝きが飾る空において
彼の日課が始まった
急速に現れる
ああ、私と共に堇の花咲く所へ来い
そして甘い香りで大気を満たせ
そこではダイヤモンドのように
雫が弾けて輝いている
2. 汚れのない朝の顔
どうしてまぶたをそのまま
夜がすぎても閉じ続けるべきか？
眠りから目覚めよ！
ああ、だれがベッドで眠っているだろうか
闇がカウチから自由になった時
そしてひばりが高く上がり
モズが喜びを歌う時に？

第三十六 年たつけさ

- 一 としたつけさの、そのにぎわいは、
みやこもひなも、へだてなく、
毬歌うたいつ、羽子つきかわしつ、
ころごころに、うちつれだちて、
かしこもこも、あそびゆくなり、
都も鄙も、あそぶなり、
- 二 のどけき春に、はやなりぬれば、
わかきもおいも、わかちなく、
さく花かざしつ、なく鳥ききつつ、
ころごころに、うちつれだちて、
やまべに野辺に、あそびゆくなり、
山辺に野辺に、あそぶなり、
- 三 ことしもいつか、なかばは過ぎて、
秋風さむく、身にぞしむ、
すずむし松虫、はたおる虫さえ、
ながき夜すがら、なくねをきけば、

われらもおいの、いたらぬさきに、
 学の道に、いそしまん、
 四 千代ながづきの、月たちぬれば、
 まがきのうちと、へだてなく、
 しら菊はなさき、紅葉かがやく、
 菊ともみじを、かざしにさして、
 君が代いわえ、八千代もよも、
 わが君いわえ、よろず世も、

歌詞を比較する限り、教育的内容では必ずしも英語訳詩を参考にしていないように見える。むしろドイツ語原詩の「人生を楽しめ」というキーワードを改変し、唱歌歌詞4番の「君が代いわえ」という教育的内容を付随させたのではないか。ドイツ語原詩7番の「祖国」という言葉も結局は「よろず世」、すなわち日本につながる。ドイツ語原詩には人類愛的な思想が内包されているが、それは唱歌歌詞には見られない。英語訳詩の「日の出」のイメージが唱歌歌詞の新年のイメージにつながっており、また花や鳥などの自然描写も英語訳詩からであろう。

(3) 第50番《やよ御民》

唐澤によると「君が代を祝う」ものの項目に分類される。この楽曲は櫻井の論文で取り扱われていないが、『教科書啓蒙文集』の注¹¹⁾において、ハイドン作曲《四季》の最初の合唱《春の歌》とされており、詳細は省くが音形を見る限り間違いないと思われる。以下にドイツ語の歌詞と翻訳、唱歌の歌詞を記す。

*Komm, holder Lenz!*¹²⁾

〈landvolks〉

Komm, holder Lenz,
 des Himmels Gabe, komm!
 Aus ihrem Todesschlaf
 erwecke die Natur!

〈mädchen und weiber〉

Er nahet sich, der holde Lenz.
 Schon fühlen wir den linden Hauch;
 bald lebet alles wieder auf.

〈männer〉

Frohlocket ja nicht allzufrüh,
 Oft schleicht, in Nebel eingehüllt,
 der Winter wohl zurück, und streut
 auf Blüt' und Keim sein starres Gift.

〈landvolks〉

Komm, holder Lenz,
 Des Himmels Gabe, komm!
 Auf unsre Fluren senke dich!

O komm, holder Lenz, o komm
 und weile länger nicht!

《来い、優雅な春よ!》

〈農民たち〉

来い、優雅な春よ
 天の贈り物よ、来い!
 死の眠りから
 自然を目覚めさせよ!

〈娘たち、女たち〉

優雅な春がやってきて
 私たちは、穏やかな息吹を感じる
 すぐに全ての生命が元通りになる

〈男たち〉

喜ぶのは早い
 霧に隠れてたびたび忍び寄り
 冬は突然戻り
 花や芽に雹をまく

〈農民たち〉

来い、優雅な春よ
 天の贈り物よ、来い!
 我々の畑に!

おお来い、優雅な春よ来い
 これ以上ためらわず!

第五十 やよ御民

- 一 やよみたみ、稲を植え、井の水たたえ、
 君がよは、はらつづみうち、身をいわえ、
- 二 やよ御民、萱をかり、わが家をふきて、
 君がよは、雨露しのぎ、世をわたれ、

唱歌歌詞における「御民」は明らかに農民をさし
 ており、ドイツ語原詩と一致する。天が春を農民た
 ちに贈り、農民たちが田畑を耕せるようになるとい
 う原詩のイメージを、「君がよ」すなわち天皇がよく
 世を治めているおかげで、御民がはらつづみうちて
 (食が足りて安楽に)生活できるという忠君的内容
 に改変していると言えよう。また、唱歌歌詞1番の
 季節は「稲を植え」という言葉から春であり、これ
 も原詩と一致する。

(4) 第73番《まことは人の道》

唐澤によると「教訓的なもの」のうち「人倫、人
 生」に関する項目に分類される。この楽曲はモー
 ツァルトの歌劇《魔笛》のパパゲーノのアリアをお
 おもとの原曲としているが、直接の出典としている
 のはアリアの初めの8小節を借用したシンドラ作
 詞の民謡 *Truth and Honesty* である。この楽曲は
 メーソンの *NATIONAL MUSIC CHARTS* からのもの

のであり、調性と編曲が唱歌とほぼ等しい。以下にドイツ語と英語の歌詞と翻訳、唱歌の歌詞を記す。

*Ein Mädchen oder Weibchen*¹³⁾

1. Ein Mädchen oder Weibchen
Wünscht Papageno sich!
O so ein sanftes Täubchen
Wär' Seligkeit für mich
Dann schmeckte mir Trinken und Essen;
Dann könnt' ich mit Fürsten mich messen,
Des Lebens als Weiser mich freu'n,
Und wie im Elysium sein.
2. Ach kann ich denn keiner von allen
Den reizenden Mädchen gefallen?
Helf' eine mir nur aus der Not,
Sonst gräm' ich mich wahrlich zu Tod'.
3. Wird keine mir Liebe gewähren,
So muss mich die Flamme verzehren!
Doch küsst mich ein weiblicher Mund,
So bin ich schon wieder gesund.

《可愛い恋人か女房が》

1. 恋人か女房が一人
パパゲーノは欲しい
優しい小鳩がいてくれるのが
僕にとっての幸せだ
そしたら飲み食いおいしくて
僕は王様の様な気分になれる
賢者のように暮らし
天国にいるようだ
2. ああ、かわいい娘のなかに
僕を好いてくれる子はいないのか?
だれも助けてくれないなら
悲しくて本当に死んでしまう
3. 誰も僕を愛してくれないなら
自分自身を燃やしてしまう
でも女の子がキスしてくれれば
またすぐ元気が出て来る

*Truth and Honesty*¹⁴⁾

1. Let precious truth and honesty
Attend thee all thy days,
And turn not thou a finger's breadth
From God's most holy ways.
2. Then, as on pastures fair and green
Through life thy feet shall roam,
Nor fear nor terror shalt thou feel,
When death shall call thee home.
3. The wicked man in all he does

Is ever sore distressed ;
His vices drive him to and fro;
His soul can find no rest.

4. The beautiful Spring, the waving trees
For him smile all in vain ;
His soul is bent on lies and fraud,
And on ill-gotten gain.
5. To him the leaf by breezes stirred
Has terror in its sound ;
And when he 's buried in the grave,
His soul no rest has found.

《真実と誠実》

1. 大切な真実と誠実を
常に同伴させよ
そして神による最も神聖な道から
ほんのわずかでも外れぬように
2. 美しい緑の牧草地を歩くがごとく
お前の人生は進み行くだらう
恐れも暴力も感じることはない
死がお前を訪れる時も
3. 行いの悪い人間は
いつも全てに苦しみ悩む
彼の悪行は彼を操り引き戻し
彼の魂は休息を見つけられない
4. 美しい春、ゆれる木々
全ては彼の愚かさにおける笑みのために
彼の魂は欺瞞と
不正な利益の上に横たわる
5. 彼にとってはそよ風に巻き上げられた木葉さえ
その音が恐怖に聞こえる
そして彼が墓穴に埋められるとき
彼の魂は休息を見つけられない

第七十三 まことは人の道

- 一 まことは人の、みちぞかし、つゆなそむきそ、
そのみちに、
- 二 こころは神の、たまものぞ、つゆなけがしそ、
そのたまを、

明らかに英語訳詩からの改作である。「誠は人の正しい道であり、決して背いてはならない」という唱歌1番の歌詞は、英語訳詩の1番と完全に重なっている。また、唱歌歌詞2番の「たまをけがしてはならない」というのは英語訳詩3番から5番までの要約と言える。「神」という言葉が示す対象はそれぞれキリスト教と神道で違いが生じるが、それ以外は唱歌歌詞と英語訳詩は全く同じ教訓を内包しており、唱歌の教訓的内容はもともとの出典に存在した

ものを翻訳しただけとみなすことが出来る。

(5) 第89番《花鳥》

唐澤によると「教訓的なもの」のうち「勉学、勤勉」に関する項目に分類される。この楽曲はゲーテ作詞、ウェルナー作曲のドイツ・リート《野薔薇》をおおもとの原曲としているが、*NATIONAL MUSIC CHARTS*の楽曲*The Wild Rose*が直接の出典であり、へ長調の調性と三声部の編曲が一致する。以下にドイツ語と英語の歌詞と翻訳、唱歌の歌詞を記す。

*Heidenröslein*¹⁵⁾

1. Sah ein Knab' ein Röslein stehn,
Röslein auf der Heiden,
War so jung und morgenschön,
Lief er schnell, es nah zu sehn,
Sah's mit vielen Freuden.
Röslein, Röslein, Röslein rot,
Röslein auf der Heiden.
2. Knabe sprach: ich breche dich,
Röslein auf der Heiden!
Röslein sprach: ich steche dich,
Dass du ewig denkst an mich,
Und ich will's nicht leiden.
3. Und der wilde Knabe brach
's Röslein auf der Heiden;
Röslein wehrte sich und stach,
Half ihm doch kein Weh und Ach,
Musst' es eben leiden.

《野薔薇》

1. 少年が小さな薔薇が立ってゐるのを見た
荒地の上の小さな薔薇
それは若々しく朝のように美しかった
彼はそれを近くで見ようと走ってきて
多くの喜びと共にそれを見た
薔薇、薔薇、小さな赤い薔薇
荒地の上の小さな薔薇
2. 少年は言った。「僕は君を折る
荒地の上の小さな薔薇よ」
小さな薔薇は言った。「私は貴方を刺すわ
貴方がずっと私を思うように
それに私は苦しみたくないの」
3. 野蛮な少年は折った
荒地の上の小さな薔薇を
小さな薔薇は自分を守ろうと刺したが
しかし「痛い」も「ああっ」も助けにならず
結局苦しめられてしまった

*The Wild Rose*¹⁶⁾

1. Once I saw a sweet-briar rose,
All so freshly blooming,
Bathed with dew and blushing fair,
Gently waved by balmy air,
All the air perfuming,-
2. "Rose," said I, "thou shalt be mine!
All so freshly blooming;"
Rose replied, "Nay, let me go,
Or thy blood shall freely flow
For thy rash presuming,-

《野薔薇》

1. かつて私は可愛い野薔薇を見た
すべてが生き生きと咲いている
露に濡れ、魅力的に赤らんでいる
爽やかな風によって、上品に揺れる
あたり一面が香っている
2. 「薔薇よ」私は言った。「お前は私のものになれ、
すべてが新鮮に咲いている」
薔薇は返す「嫌、私を行かせて
そうでなければあなたの血が流れることになるわ
あなたの軽はずみな思い込みのために」

第八十九 花鳥

- 一 山ざわしらみて、雀はなきぬ、はやとくおきいで、
書よめわが子、ふみよめ吾子、書よむひまには、
花鳥めでよ、
- 二 書よむひまには、花とりめでよ、鳥なき花さき、
たのしみつきず、たのしみつきず、天地ひらけし、
はじめもかくぞ、

歌詞が二連であることから英語訳詩が直接の出典であることが窺える。ドイツ語原詩の1番2番と英語訳詩に大きな違いはなく、どちらも野薔薇は処女を奪われる乙女を暗示している。唱歌には「早く起きて、書を読め」という教育的内容と、「天地が開けたときからこれまで何ら変わらない」という世界の普遍性を示す内容が存在するが、出典からそれは読み取れず、作詞者である音楽取調掛員の里見義久によるものであると推測できる。

4. 結 論

本論文においては『小学唱歌集』のドイツ語楽曲を原曲とする唱歌のうち5曲を選択して分析したが、結果、取り上げた楽曲に関しては、必ずしも原曲と全くの別物とは言い切れないことが判明した。諸所の文献において「明治時代における翻訳唱歌は日本

で勝手に道徳的内容が付加されており、原詩とは全くの別物である」という意味合いの記述を多く目にするが¹⁷⁾、例えば第36番、第50番、第73番などはそれには当てはまらず、むしろドイツ語原詩や英語訳詩がもともと持っていた教訓的内容や歌詞のイメージを、教育的な形で日本人に解りやすく作り変えているだけと言えよう。また、これまで日本語訳のなかったいくつかの楽曲の翻訳を掲載できた事も本論文の成果に含める。これからの課題としては、ドイツ語楽曲を原曲としたものにこだわらず、明治時代の多くの翻訳唱歌を同じ手法で比較分析することにより、当時の唱歌教育の状況を、歌詞を通じて更に考察していきたいと考えている。

注

- 1) 山東功『唱歌と国語 明治近代化の装置』(講談社, 2008) p.66, 67.
- 2) 唐澤富太郎『教科書の歴史』(創文社, 1956) p.135~139.
- 3) 山住正巳『唱歌教育成立過程の研究』(東京大学出版会, 1967) 第4章
- 4) 奥中康人『国家と音楽 伊沢修二がめざした日本近代』(春秋社, 2008) p.190.
- 5) 安田寛『「唱歌」という奇跡 十二の物語 讃美歌と近代化の間で』(文藝春秋, 2003) p.44~56.
- 6) Andreas Kretzschmer, *Deutsche Volkslieder mit ihren Original-Weisen*, Berlin 1840, S.162. 日本語訳は筆者による.
- 7) Ethelbert Nevin, *Cradle Song*, Boston 1899, p.3~5. 日本語訳は筆者による.
- 8) 伊澤修二著, 山住正巳校注『洋楽事始』(平凡社, 1971) より引用。以下、唱歌歌詞は全てここからの引用。

- 9) August Linder, *Deutsche Weisen*, Stuttgart 1900, S.24. 日本語訳は筆者による.
- 10) Luther Whiting Mason, *National Music Charts*, 2nd ser., p.26. 日本語訳は筆者による.
- 11) 斉藤利彦校注『教科書啓蒙文集 新日本古典文学大系明治編11』(岩波書店, 2006) p.149.
- 12) Joseph Haydn, *Die Jahreszeiten*, Leipzig 1920, S.9~18. 日本語訳は筆者による.
- 13) 荒井秀直訳『オペラ対訳ライブラリー 魔笛』(音楽之友社, 2000) p.10,107. 日本語訳は筆者による.
- 14) *National Music Charts*, 2nd ser., p.26. 日本語訳は筆者による.
- 15) 三ヶ尻正『歌うドイツ語ハンドブック』(ショパン, 2003) p.190,191. 日本語訳は筆者による.
- 16) *National Music Charts*, 3rd ser., p.26. 日本語訳は筆者による.
- 17) 渡辺祐『歌う国民』(中公新書, 2010) p.57. などを例として挙げる.

主要な参考文献

- ・山住正巳『唱歌教育成立過程の研究』東京大学出版会 1967年
- ・奥中康人『国家と音楽 伊沢修二がめざした日本近代』春秋社 2008年
- ・伊澤修二著, 山住正巳校注『洋楽事始』平凡社 1971年
- ・松村直行『童謡・唱歌でたどる音楽教科書のあゆみ』和泉書店 2011年
- ・山東功『唱歌と国語 明治近代化の装置』講談社 2008年
- ・唐澤富太郎『教科書の歴史』創文社 1956年
- ・Atsuko Watanabe-Gross, *Einführung der europäischen Musik in Japan*, Hambrug 2007